

県名の由来

飯田朝明

笑考快議処令和7年6月～11月までの発表記事をまとめたものです

1 青森県

明治4年に弘前町から青森町に県庁が移設された。江戸時代に今の青森市に港が建設されたが、その場所を示す海上からの目印にする場所に青い森があった（今はない。）ことに由来する。

2 岩手県

県庁が置かれた盛岡市の属する岩手郡に由来する。「岩手」は、住民がする悪鬼追討の祈りに対し、人々の信仰を集める「三ツ石さま」と呼ばれた大岩がそれを懲罰し、二度この地を荒らさないようにとして確約を岩に残させたという故事に起源がある。

3 秋田県

飛鳥時代の阿部比羅夫の日本海遠征において、この地を龜田（あきた・龜は別の字）と報告したことに由来する。龜田は鰐に似た地形から付けたとも言われ、雄物川河口部の古い地形のことを示しているとされ、この頃から秋田城と呼ばれるようになっている。

4 宮城県

仙台の属していた宮城郡に由来する。古代陸奥国の都が多賀城に置かれて政庁とした宮の城の所在地であったので、宮城にしたとされる。

5 山形県

和名類聚抄に今の山形市の南側を山方郷と言ったことに由来する。

6 福島県

明治9年に信夫郡福島町に県庁が置かれ福島県が成立した。信夫郡はその昔見渡す限りの湖の真ん中に信夫山があり、湖はその後人が住めるような陸地となったが、この山には吾妻おろしが吹きつけていたため、吹島と呼ばれるようになっていた。この「吹く」があまり良くないので、お目出度い「福」という文字に置き換えて福島にした。

7 群馬県

上代は毛野国を形成し、上毛野国（かみつけぬくに）とされていたが、上野国となった。また、群馬は「くるまのこおり」と言い、「車」の一字で表記されていたが、奈良時代に2文字の好字で表記されるようになり、「群馬」と書くようになった。群馬は、貴重な馬が群れている豊かな土地であることを意味している。

8 栃木県

旧国名は下野国（しもつけのくに）で、明治4年に栃木県と宇都宮県とが統合し栃木県となった。栃は色々な文字で表記されていたが、その後統一されて今の表記になった。栃木は県庁所在地が置かれた「栃木（今の栃木市）」に由来するが、以下の諸説がある。

- ① 十千木（とおちぎ）説は、神明宮という神社があり、社殿の屋根の2組の千木と鰹木（かつおぎ）が遠くから見ると十本に見えたことから十千木と呼ぶようになり、それが転訛したという説である。
- ② トチの木が沢山あり、転訛して「トチギ」となった。
- ③ 栃木市を流れる巴波川がたびたび氾濫を起こしたので、千切れた地形の動詞「チギ」に接頭語の「ト」が付いた。
- ④ 遠津木説は、和歌山県を紀（木）の国というが、これと区別して、遠くの「木の国」であるとした。

9 茨城県

国郡里制時代に置かれた茨城郡に由来する。諸説あるが、

- ① 朝廷から派遣された大臣、黒坂命が先住民の城を茨棘を用いて滅ぼした。
- ② 黒坂命が人々を悪族から守るため、茨で城を築いた。
- ③ 茨が生えた地域である。
- ④ 廃藩置県で統合されたが、水戸県としなかったのは、明治新政府へ絵の貢献度が認められなかったためとされる。

10 埼玉県

律令制時代の埼玉郡に因むが、行田市のさきたま古墳が県名発祥の地とされる。

11 東京都

江戸城が明け渡された後、1868年（明治元年）7月に西の京都に対して江戸を東の都として東京と改め、文書に東京と表記されるようになり、これと並行して皇居、太政官などの首都機能を移転させた。出羽国の思想家佐藤信淵が江戸に首都を置いて王城の地となし、東京と改称すべきと論じたが、これを初代内務卿（首相）の大久保利通が読んだ。また、大久保の宿舎に投書があり、新たに開拓された北海道を含めた日本全国の地理的中心である江戸に遷都すれば、土地は広大であり、武士の邸を官庁にすぐに使用できるので、旧弊のある京都から遷都すべきだとの提言があり、これを大久保が採用したというもので、この話は、司馬遼太郎著の「この国のかたち」に書いてある。

12 千葉県

律令制以前に千葉国造、千葉郡と出てくる。防人の歌として千葉の野と記されており、日本書紀や古事記にも出てくる。数多くの葉が繁茂する地という意味で、土地と子孫の繁栄を願った地名である。

13 神奈川県

鶴ヶ岡八幡宮に所蔵されている文書に武蔵国稲目、神奈河両郷として記されている。神奈川、上無川とも表記される。上無川は、上の無い川という意味で水量が少なく、水源地もどこか分からなかったことを意味する。神奈川の由来は、このほかにも諸説ある。

- ① 金川ともいうが、日本武尊が上無川で船出の準備をしたとき、倭姫からもらった宝剣が金色に輝いて川面に映った。
- ② 源頼朝が金川の美しさを称賛し、神を大いに示す川ということで、神大示川と呼んだが、これが神奈川になった。
- ③ 神奈川湊、神奈川宿、神奈川奉行とかに既に使われており、対外的にも知られている神奈川を県名とした。

14 新潟県

古代からこの地域は高志国（越の国）と呼ばれていた。明治維新と廃藩置県の直後には今の県の領域には13もの藩や県が並立していたが、これらが統合して成立した。県名は県庁の置かれた新潟市に由来する。「新潟」は、信濃川や阿賀野川が氾濫し、河口の中州に沼地を意味する潟が新たにできたが、それを表している。日本の民俗学を創始したとされる柳田國男は、干潟のことだけを潟というのは、白熊のことを熊は必ず白いというのと同じだと著書に書いている。

15 富山県

県庁の置かれた富山町に由来する。室町幕府幕臣吉見詮頼が越中国地頭職に就いたというのが「外山」の文書上での初見といわれる。「富山」となったのには、以下の諸説がある。

- ① 越中守護所があった御服山（呉羽山）の東端の麓（射水市）から見て外側に位置することから「外山」の字が当てられた。
- ② 立山連峰を仰ぐことができ、山に富んでいることから「富山」とした。
- ③ 元々は藤居山という地名だったが、富山寺（ふせんじ）という寺があったため、富山と呼ばれた。
- ④ 深山に対して外山（とやま）と呼ばれた。

16 石川県

古くからあった石川郡美川町に県庁が置かれたことに由来する。加賀地方は石川郡と呼ばれていたが、県最大の河川である手取川の古名が「石川」であり、文字通り石の多い川だったという。

17 福井県

江戸時代に城が築かれた北の庄という地名の「北」が敗北につながるとして「福居」となった。その城下町の名前が「福井」に改称されて、県庁が置かれたことに由来する。

18 長野県

長野村に県庁が置かれたことに由来するが、長野とは扇状地の長い傾斜面につけられた地名とされる。

19 山梨県

果物のヤマナシが沢山採れたからとか、山をならして平地になった「山ならし」から来たとかの説のほか以下の諸説があるが、甲府県を山梨県と改名した理由は、はっきりしないと山梨県史に記載されている。

- ① 国司の役所が平地に建てられた。
- ② 甲斐に梨の木が多くあった。
- ③ 献上梨の産地の近くの神社の名前である。

20 静岡県

シズオカの「シズ」は静岡浅間神社の裏手にある賤機山に由来するが、「賤」は賤しいに通じることから「静岡」とした。江戸時代には府中と呼ばれていたが、府中という名称が特定の地名を指していなかったため、明治政府が採用した。

21 岐阜県

織田信長の命名とされ、美濃国を攻略した際に稲葉城下の井口をギフと改めたというが、以下の諸説もある。

- ① 雨水を呼ぶ峻険な山を意とする「岐」と盛り上がった高い所を意とする「阜」を合わせたが、「岐阜」は山地と下流域を潤す豊かな水をたたえた河川とがある山紫水明の地なので、この地に相応しい地名とされた。
- ② 僧侶の沢彦宗恩が岐山（殷が周王朝に変わるとき鳳凰が舞い降りたとされ、周の文王がこの山で立ち上がり、その八の基を築いたという伝説がある）と、曲阜（孔子が生まれた儒学発祥の地）を一つにした「岐阜」という地名にし、太平と学問の地であれとの願いを込めた。
- ③ 古来岐府、岐陽、岐山、岐下と信長の以前から使用されており、稲葉山城のあった稲葉山を岐山、里を岐阜と呼んでいた。

22 愛知県

「年魚市潟」の「あゆち」が「あいち」に転じたと言われており、県庁が愛知郡の名古屋城に置かれたことに由来する。以下の諸説もある。

- ① 万葉集には「年魚市」、「吾湯市」と書かれており、奈良時代以前は、名古屋市南部を「あゆち」と呼んでいたらしい。
- ② 平城宮跡からは「尾張国阿由市郡」の木簡が見つかった。
- ③ 古代の熱田台地は半島になっており、周辺が干潟で、その付近を「年魚市潟」と呼

んでいた。

④ アユが捕れる所とか、「あゆ」には湧水や幸いを運ぶ東風を表すという説もある。

23 京都府

「京都」は、京と都の二つの「みやこ」を意味する言葉が合わさってできた。元々は中国で天子がいる「みやこ」つまり首都を意味する普通名詞だったので、日本では飛鳥京、恭仁京なども京都と呼ばれていた。794年に平安京が首都となり、その後長きにわたり「みやこ」であり続けたが、平安時代後期から「京都」が平安京を指す固有名詞となり、鎌倉時代には定着している。1868年（慶応4年）に京都府となり、明治4年の廃藩置県で京都府として再設置されており、明治9年に現在の府域となった。

24 兵庫県

大化の改新の際に、この地域を防備するための兵器を収める倉庫である「兵庫（つわものぐら）」が設置されたことに由来する。慶応4年に兵庫県として設置され、県庁は今の神戸市に置かれた。県域は、その後の変遷を経て、昭和38年に岡山県の一部が編入されて現在のものとなっている。

25 滋賀県

県庁の置かれた滋賀郡大津町に由来する。シガは石の多い場所を表すという説が有力である。明治5年に滋賀県として設置されたが、明治14年に日本海に接する北部地域が福井県に編入されて現在の県域となった。

26 大阪府

中世に小坂（おさか、おざか）、大坂（おさか、おざか）という名称が登場するが、明治時代に「大阪（おおさか）」と改められた。この坂とは、大阪城付近を北端とし、南方向に細く連なる上町台地（うえまちだいち）に登る坂に由来するとされる。明治元年に設置されて今の大阪市に府庁が置かれたが、府域は、その後何度か変遷があり、明治20年に奈良県が分離して現在のものとなった。

27 奈良県

古代の都である平城京が置かれた地「なら」に由来し、古くから乃楽、平城、寧楽などと書かれていたが、平安時代に「奈良」になった。明治5年に奈良県となったが、その後堺県や大阪府に編入され、明治20年に奈良県として再設置された。

28 三重県

明治5年に県庁が置かれた四日市が三重郡だったことに由来するが、その後県庁の所在地は津に変更されたものの、そのまま「三重」が使われ、明治9年に三重県が再設置された。古事記によると、ヤマトタケルが東方遠征を終え、現在の桑名から亀山に向かう途

次、「吾が足は三重のまがりの如くして甚だ疲れたり」と言われたとされる。

29 和歌山県

豊臣秀吉が和歌の浦と岡山を合成して「和歌山」と命名したとされている。和歌の浦は入り組んだ湾形が潮の満ち引きにより刻々と変化する風光明媚な地であり、歌枕ともなっている。江戸時代以後も城下町で、県名はその名称を採って明治4年に和歌山県として設置され、県庁は今の和歌山市に置かれた。江戸時代に徳川御三家の一つ徳川紀伊家の城があった所だが、和歌山の県名が付けられたのは、和歌山が秀吉時代から続く城下町だったことからだと思われる。

30 鳥取県

飛鳥時代鳥取の久松山付近は鳥取部（とりべ）と呼ばれていた。古事記には鳥取造（とりのみやつこ）という記述があり、大和朝廷が鳥を捕えて、これを税として納めるよう命じたとされる。当時この地は沼や沢が多い湿地帯で、水辺に集まる鳥も多く、それを捕る狩猟民がこのように大和朝廷に従属するようになったとされている。明治4年に鳥取県が設立されたが、その後、一部が兵庫県や島根県に編入された明治14年に今の県域に再編された。

31 島根県

明治4年に島根県として設置され、その命名は県庁が置かれた松江が古くから嶋根郡にあったからだとされる。出雲風土記によれば、嶋根は八束水臣津野命（やつかみずおみつのみこと）が命名したとされているが、{しま}も「ね」も高くなった所を意味し、島状の峰となっている島根半島に由来するとの説が有力である。

32 山口県

明治4年に山口県として設置された。県庁所在地の「山口」に由来するが、長門国に通じる道の入り口だったとか、鉾山の入り口だったとか葛城山への登山口の一つだったとかの諸説がある。

33 岡山県

1590年に石山城を居城としていた宇喜多秀家が新城の本丸と天守閣を建設する際、その場所が小さな丘で岡山という名称だったことに由来する。明治4年に岡山県として設置され、その後領域の変更があり、昭和38年に東部の一部を兵庫県に移管し、現在の県域となった。

34 広島県

毛利輝元が築城の鋤入れ時命名したと言われている。毛利氏の祖先大江広元の「広」と戦国時代の福島元長の「島」を併せたとか、広くデルタの島々が合わされたという自然の

地形に由来するとかの説がある。明治4年に広島県として設置されたが、明治9年に東部が岡山県から移管されて、現在の県域となっている。

35 香川県

香の川から来ているといわれ、昔香川の奥山に樺の木があつて、ここを流れる川の水に香りを移したという、その樺川が流れたことに由来する。高松が属していた香川郡から採られた県名で、明治4年に香川県が設置され、明治5年に現在の県域となった。その後愛媛、徳島の両県に移管されたりしたが、明治21年に再設置された。

36 愛媛県

国生み神話に登場する女神「愛比売（えひめ）」がこの地に宿ったことに由来する。県名としては、唯一神の名が付けられている。この地域には17世紀後半に松山藩を最大とする伊予八藩と呼ばれる小藩が成立していたが、明治4年の廃藩置県に伴い、これらの藩名がそのまま県名となっていた。その後、明治21年に愛媛県として設置され、現在の県域になったが、幕末期の国学者半井梧庵が「愛媛面影」という伊予の地誌を出したのが、「愛媛」を充てた最初の例とされる。

37 徳島県

蜂須賀氏が城を築いた吉野川河口の三角州付近が「徳島」と呼ばれていたことに由来する。明治3年に徳島県となったが、明治4年に再設置され、その徳島に県庁が置かれた。

38 高知県

土佐藩主山内一豊が河川に挟まれた大高坂山（おおたかさかやま）に城を築き、河内山城と名付けたのが「高知」の起こりとされる。明治4年に高知県が設置され、その高知に県庁が置かれた。

39 北海道

幕末の探検家松浦武四郎が名付けたとされる北加伊道の加伊(カイ)はアイヌの古い言葉で「この地に生まれた人」という意味を持つそうである、最終的に、これに「海」の字を充てたことに由来する。明治2年に北海道として設置された。

40 福岡県

黒田長政が博多の西に築城した際、祖先の出身地備前福岡の名を採って付けた城下町を福岡としたという説と福岡の丘陵地に築城したためという説とがある。明治4年に福岡県として設置されたが、明治9年に現在の県域がほぼ確定した。

41 佐賀県

日本武尊が巡行時、樟の木が茂る有様を見て、この国は「栄の国」と呼ぶのがよからう

と言われ、その後「栄の郡」改めて「佐嘉郡」と呼ぶようになったと、肥前国風土記にはある。明治時代になって、嘉が賀になったとされる。その他に次のような諸説がある。

- ① 朝廷に服従しなかった土蜘蛛の大山田女と狭山田女の2人の女性が暴れ川の佐嘉川を鎮めたことから賢女として崇められた。
 - ② 傾斜地を指す「坂」から来ている。
 - ③ 潮汐作用などで逆流する「逆」や砂丘地を指す「洲処（すか）」が転訛した。
- 明治4年に佐賀県が設置されたが、明治16年に今の県域として再設置されている。

42 長崎県

長く突き出した岬に由来するという説が有力で、野母崎半島を長い岬と呼んでいたが、これが転訛したというものである。その他に、この地を収めた伊豆国出身の長崎氏から来ているという説もある。慶応4（1868）年に長崎府が設置されたが、明治4年に県となり、明治9年に今の県域になっている。

43 大分県

明治4年に設置され、大分郡に県庁が置かれた。オオキタと呼ばれていた土地に大分の字を充てたという説がある。日本書紀では、景行天皇の九州巡行の記事にこの地に至り、その地形大きくまた麗しい、よって碩田（おおきた）と名付け、「於保岐陀」とも言うところ。しかし、大分平野は広大とは言えず、実際には入り組んだ田が造られている様子を形容した「多き田」が大分に転訛したという説が近年では定説になっている。

明治9年に現在の県域となった。

44 熊本県

加藤清正が1600年頃に城を築いた際、「隈本」を「熊本」に改めたとされる。隈に畏（おそれ、かしこまる）の字が入っており、武将に相応しくないとされたからだとされる。明治9年に現在の熊本県が誕生した。

45 宮崎県

神武天皇に因む伝承があり、宮の辺りとか所在地とかいうような意味で、「宮崎」の地名が起こったとされている。宮のある岬という意味もある。明治4年に宮崎県が設置され、宮崎郡に県庁が置かれた。その後鹿児島県への移管を経て、明治13年に再設置された。

46 鹿児島県

野生の鹿の子が多く生息していたからとか、火山を意味するカゴとからとか、多くの水夫（カコ）が住んでいたからだなどの説がある。古くは桜島のことを鹿児島と呼んでいたそうで、薩摩、大隅半島に囲まれた島という意味のようである。天津日高彦穗々出見尊（山幸彦）が海神宮（わたつみ）に行く際、乗った船が「神籠もる島」で造られたという説、カゴは崖と言う意味で四方が崖に囲まれた桜島を「カゴ島」と呼んでいたという説も

ある。明治4年に鹿児島県が設置されたが、その後、琉球（沖縄）と宮崎の分離があった。

47 沖縄県

阿児奈波（あこなわ）が最初の呼び名とされている。沖合の「沖」と魚の「な」と場の「は」に由来するという説や沖にある場所、遠い場所とか沖から見ると縄のように見える島であるなどの説がある。明治9年に設置され、県庁は首里に置かれた。